

# 探究学習の現場から

## 第2回 岡山県立瀬戸高校

▶設立:1909年 ▶種別:全日制/普通科/共学 ▶生徒数:1学年約160人  
▶校訓は「尚学・自主・健康・協調」。第9回キャリア教育推進連携表彰優秀賞受賞  
▶2020年度合格実績(現役のみ):国公立大は、岡山大、広島大、香川大、鳥取大、愛媛大、岡山県立大などに、延べ28人合格。私立大は、立命館大、関西学院大、近畿大、金沢工業大などに延べ163人が合格

### 瀬戸高校の探究学習

<b>内容</b>	「インプット→問いの設定→インプット→コンセプトメイキング→アウトプット」のサイクルを3年間で最高4回経験。ルーブリックで自分の到達度を確認。「越境」と「イノベーション」がキーワード。		
<b>対象・期間・時数</b>	・1～3年次の「総合的な探究の時間」を活用 ・1年生は週2時間、2・3年生は週1時間実施	<b>体制</b>	・キャリアデザイン室が全体をデザインし、各学年団の教員が指導を担当 ・地域の人や専門家などが「瀬戸高の先生」として探究をサポート
<b>テーマ例</b>	・「防災Can do」防災意識啓発のためのアメの製作・販売(SDGs13番) ・「デニタン」セネガルの布×デニム(SDGs10番 右下写真) など	<b>評価方法</b>	・「6つの力」を軸にしたルーブリックに基づき生徒自身が自己評価 ・校内のポスターセッションや校外のコンテストなどで発表し評価を受ける

### 「瀬戸高でつきたい6つの力」

<b>① 受けとる力</b>	<b>② 伝える力</b>	<b>③ つながる力</b>
・聴く ・メモする ・ノートをとる	・言葉で伝える ・記述する ・プレゼンする	・仲間とつながる ・地域とつながる ・世界とつながる ・考えと考えをつなぐ
<b>④ 考える力</b>	<b>⑤ 見つける力</b>	<b>⑥ より良くなるようにする力</b>
・論理的思考力 ・批判的思考力 ・デザイン思考	・課題を見つける ・強味を見つける ・新たな価値を見つける ・発想する	・好きを極める ・自分でキャリアをデザインする



▲ソーシャルビジネスを学んで公平公正な社会の実現をめざす。色使いが派手なセネガル特産の布に、デニムを組み合わせて、日本人好みのポーチなどを制作。JICAオンラインで活動の成果を発表。



\*学校資料を基に編集部で作成。

行動面も変化します。生徒は、探究で学校外のさまざまな場所に「越境」して出かけます。その経験から、学校の中でプランを考え続け

探究学習を通して生徒は、自分の考えを自分の言葉で堂々と話せるように変わります。それは、自分の意見の基となる体験を持つようになるからです。1年生のときは、地域の課題について2行しかノートに書けなかった生徒が、3年生になると1ページにびっしり書いてきます。

### 探究学習を通して生徒も学校も変化

評価を行います。活動の成果発表は、校内のポスターセッションや、校外のコンテストなどで行っていますが、外部の人からコメントをもらう場合も、ルーブリックを用い、何ができていて何ができていないかを明確に伝えるようにしています。生徒自身も評価者に、ほめてもらうだけでなく次の成長につながるアドバイスを期待しています。

## 大学への期待

### オンラインによる探究活動の機会提供を

岡山大学「SDGsユース」や福井大学「協働探究」、「生徒国際イノベーションフォーラム」など、コロナ禍においても生徒に「深い学び」を提供できたのは、オンラインでつながる大学発信の「場」があったからです。これからもオンラインで探究できる「気づき」や「発表」などの場をつくってください。

探究学習を通して生徒は、学びの楽しさを体験しています。その学びを大学で止めないでほしい。未来をつくる生徒・学生に伴走し、共に育てていきたいと思います。



指導教諭・キャリアコンシェルジュ

### 絹田昌代

きぬたまさよ ●1988年岡山大学教育学部卒業。1990年岡山大学大学院教育学研究科修了。1990年4月から岡山県立岡山一宮高校、岡山県立倉敷南高校などに勤務。2017年4月より現職。

生徒の「自走」を促す探究活動。イノベーションを起こす力で自らのキャリアを切り開く。

変化の激しい社会を生きる資質・能力を探究で育成  
私が探究活動の企画を担当するに当たって一番考えたのは、「真面目だけど受け身なうちの生徒に、変化の激しい社会で、主体的に生きていける力を付けさせたい」ということでした。それにはまず、生徒が学びに対して自ら動く——「自走」することが欠かせません。その力を、学びを

む中で身に付けてほしいと考え、思い切って新たな価値を生み出すイノベーションに挑戦する活動をデザインしました。  
まず、1年次前半に足元の地域の課題をテーマに探究活動を行う「セト☆ラボ」に取り組みます。ここでは探究活動全体の流れや、グループでの学び方を学びます。次に1年次の後半からは、「S☆ラボ」を始めます。ここでは、地域の枠を離れ、生徒の進路と関係が深い「学問」でテーマ設定を行います。その際、切り口として活用するのがSDGsです。1年次後半の半年で1回、2年次の1年間で1回の探究を実施します。  
3年次は、2年間の探究の仕上げとして、進学や就職に向けて、学びの設計書や自己推薦書、志望理由書を夏休みまでに書き上げる「D☆ラボ」に取り組みます。万が一この段階で志望先や志望理由があいまいだった場合は、もう1回ここで探究活動を行います。生徒によっては、3年間のうちに、最高で4回の探究を経験します。  
探究で生徒が自走するには、まず、自分が大切にしたいと思っ

### 好きなテーマであれば生徒は「自走」する

探究で生徒が自走するには、まず、自分が大切にしたいと思っ

いる価値に気づかせ、好きなテーマに取り組ませることが欠かせません。なぜなら生徒は指示に従わせようとすると、とたんに止まってしまうからです。したがって、教員の役割は生徒が追究する学びを止めずに「伴走」すること。私たちの支援は話を聞いて問題点を整理したり、データの収集方法を提案したりすることなどに止めます。考えたり実際に行動したりするのは、あくまで生徒自身です。  
探究を進める過程では、現場の最新情報や専門的な知識などが必要になります。そのときは、地域の方々やその分野の専門家などにサポートをお願いします。外部の協力者は皆さん「瀬戸高の先生」です。大学の先生には、生徒が探究で詰まった時にアドバイスをもらっています。こうした活動を経て、防災意識を啓発するアメ「防災Can do」の企画・製造・販売などの新たな価値が生み出されています。  
探究学習を通して生徒に身に付けさせたい力が、「瀬戸高でつきたい6つの力」です(左ページ表)。それぞれの力の到達度を共通の目標で話せるように、ルーブリックを作成しています。生徒はこのルーブリックを基に、1、2年生は年2回、3年生は年1回、自己

\*1「☆」は生徒を輝かせたい思いを表すもの \*2「D」は「Dream」「Discover」「Design」を表す